



4



1



2



5

右頁 1 レトロな人力車で移動をするおいらん / 2 多くの見物客に見守られた巴波川での水上朗読劇。先頭の舟には代官に扮した大川市長の姿も / 3 塚田歴史伝説館の黒塀を背景に練り歩くおいらん一行 / 4 スタッフが着用する半纏の背には歌麿のロゴが / 5~9 主な出演者の皆さん (5 「新造さん」と呼ばれる見習い / 6 大きな傘を支える傘持ち / 7 女将(左)と芸者(右) / 8 鳥屋重三郎(左)と歌麿(右) / 9 「カムロ」と呼ばれる世話付きの少女)

左頁 1 一行を先導する金棒持ちの二人 / 2 水上舞台を彩った地元のお囃子 / 3 朗読劇で登場人物の声を演じた皆さん / 4 「肩持ち」を伴い練り歩くおいらん / 5 嘉右衛門町伝建地区の情緒ある街並みでの道中 / 6 朗読劇で披露された唄や尺八 / 7 一行が乗った舟を操った船頭さん / 8 会場整理などでも多くの皆さんの協力をいただきました / 9 まつりを主催する「歌麿を活かしたまちづくり協議会」の大木会長



9

8



7



6

当日の9月30日は、台風24号の影響のため、室内を中心とした開催となりましたが、優美でエキゾチックな歌麿道中の様子は、国内外からの多くの見物客の目を楽しませていました。

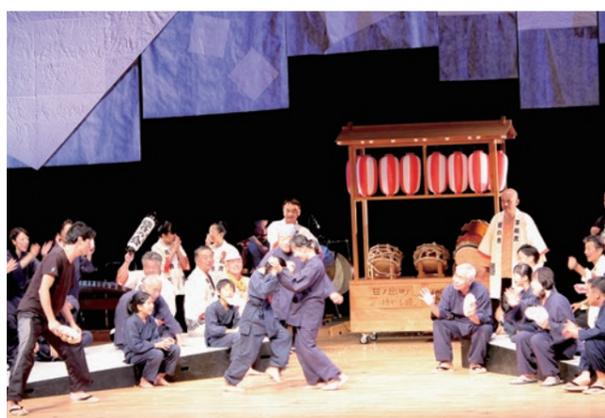
歌麿の縁を通じた国際交流

「外国人の歌麿道中」

栃木市と歌麿のゆかりを、外国の皆さんにも知ってもらいたいと、今回初めて企画された「外国人の歌麿道中」。歌麿道中と同様に出演者を公募し、パラグアイ出身のおいらん役をはじめ、様々の国の出身者が、歌麿が描いた世界を演じました。



謎に包まれた歌麿の生涯に迫る「歌麿夢芝居〜恋しや恋し母子草〜」
10月7日・8日、とちぎ歌麿シアタープロジェクトによる「歌麿夢芝居〜恋しや恋し母子草〜其の参が、大平文化会館にて上演されました。この芝居は、平成28年に、歌麿没後210年の記念として創作された、市民の手による舞台です。



歌麿が幼少期を栃木で過ごしたという大胆なストーリーで歌麿の謎に迫るもので、3度目の公演となった今回は、笛や三味線、箏による生演奏も加わり、新たな装いで上演されました。